最後の一本

月　日　名前

標準（ひょうじゅん）⑦

最後の一本

五年生の秋のバスケットボール大会で、健太のチームは一点差で負けた。試合が終わる直前、健太の放ったシュートはリングに当たって外れたのだ。

「気にするなよ。」

仲間はそう言ってくれたが、健太は顔を上げることができなかった。あの一本が入っていれば、と何度も思い返した。それから一週間、健太は練習に身が入らず、シュートの場面になると、すぐ味方にボールを回すようになった。

ある日の放課後、一人で体育館のかたづけをしていると、コーチが声をかけてきた。

「あの場面で打ったのは、君だけだったな。」

健太ははっとした。

「みんな、時間がせまっているのにパスを回していた。外れても、打とうと決めた勇気は、ぼくはりっぱだと思う。入らなかったことと、打たなかったことは、まるで別のことだよ。」

コーチが立ち去ると、体育館は静かになった。健太はボールを一つ取り出すと、ゆっくりシュートの構えをとった。ボールは外れた。もう一度。また外れた。三本目が音もなくネットを通りぬけた時、健太は久しぶりに小さく笑った。

1 健太のチームは、何点差で負けましたか。

点差

2 負けた後の健太の様子に合うものはどれですか。

ア　シュートの場面で味方にボールを回すようになった。

イ　前より多くシュートを打つようになった。

ウ　チームをやめた。

3 コーチが「りっぱだ」と言ったのは、健太のどのようなことですか。

4 最後に健太が小さく笑ったのは、どのような気持ちからだと考えられますか。

ぜんぶ　できたら　ほしに　いろを　ぬろう ☆ ☆ ☆

© きりんドリル kirindrill.com